

PRAEVIDENTIA DAILY (3月4日)

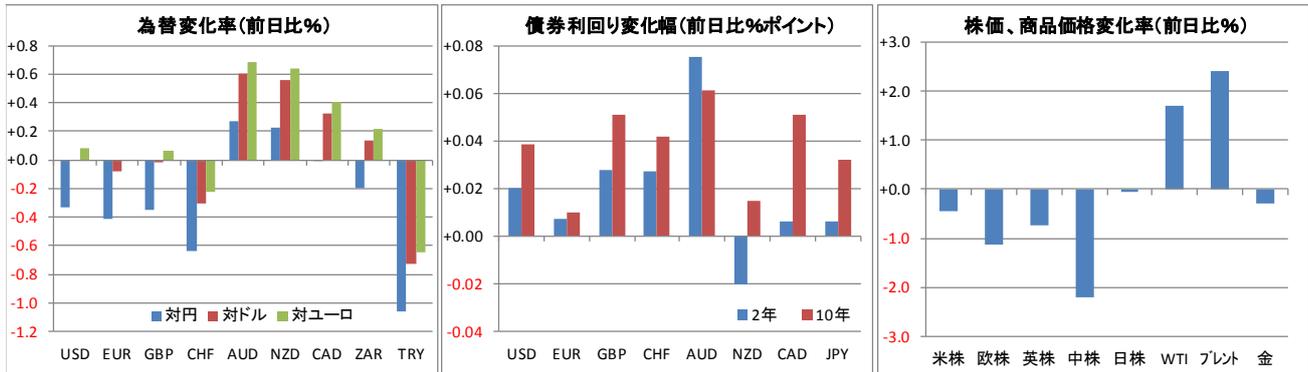
昨日までの世界：政府の追加緩和慎重姿勢と RBA 据置きで円と豪ドルが上昇

昨日は、本田内閣府参与の追加緩和に関する消極発言および米株安を受けて、ドル/円が下落したのが特徴的だった。ドル/円相場は朝方、前日の流れを受けて一時 120.26 円へ続伸した。もっとも、WSJ 紙とのインタビューにおける政府サイドのリフレ推進派だった本田内閣府参与の発言報道「原油安でインフレが低下しても、GDP ギャップが縮小しているのであれば追加金融緩和はやってはいけない、逆にオーバーヒートする」「更なる円安ドル高に懐疑的、購買力で見て足許の円水準は許容範囲の下限」を受けて 119 円台半ばへ反落した。更に、NY 時間に米株価が一時大きく下落すると、119.35 円へ続落した。この間、米中長期債利回りは上昇したが、特段 FOMC 利上げ期待に修正を迫るような材料はなく、ドルの反応もあまりみられなかった。なお、本田参与は「夏を過ぎても需要が弱いままなら追加緩和が必要になる」とも述べている。

豪ドルは、RBA が追加利下げを行わず 2.25% で据え置いたことから、0.777 ドル台半ばで推移していた豪ドル/米ドル相場は一時 0.7844 ドルへ急上昇、前日の下落分をほぼ取り戻す動きとなった。RBA 声明文では「当面 (for the time being) 金利を安定的に保つのが妥当」である一方、「今後は更なる金融緩和が妥当」とされ、緩和バイアスを採用したかたちとなった。このため追加緩和期待は残り、一旦豪ドル反発は止まっている。

カナダドルは、カナダ 4Q GDP が前期比年率 +2.4% と、前期の +2.8% からは鈍化したものの、市場予想の +2.0% を大きく上回ったことから上昇した。原油価格のじり高傾向も下支え材料となった。NZ ドルは、豪ドルやカナダドルにつれ高となったほか、世界乳製品取引価格 (GDT) オークションで価格指数が前回比 +1.1% と小幅ながら 6 回連続上昇となったことも下支え材料となったようだ。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：カナダも RBA に追随据置き？

きょうの注目通貨：USD/JPY ↑、CAD ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 4Q GDP ・前期比	9 : 30	+0.3%	+0.5%	
Yellen ・ FRB 議長発言	10 : 15			銀行規制と監督について
英 2 月 サービス業 PMI	18 : 30	57.2	57.5	
米 2 月 ADP 民間雇用者数	22 : 15	+21.3 万人	+22.0 万人	
Evans シカゴ連銀総裁発言	23 : 00			ハト派、投票権あり
米 2 月 ISM 非製造業景況指数	0 : 00	56.7	56.5	前月雇用指数は 51.6
カナダ中銀金融政策決定	0 : 00	0.75%	0.75%	
George カンザス連銀総裁発言	3 : 00			タカ派、投票権なし

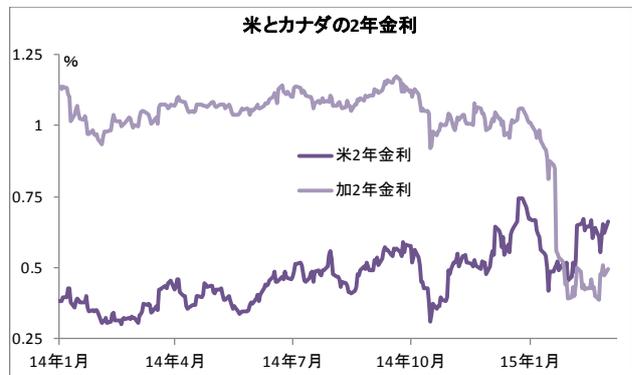
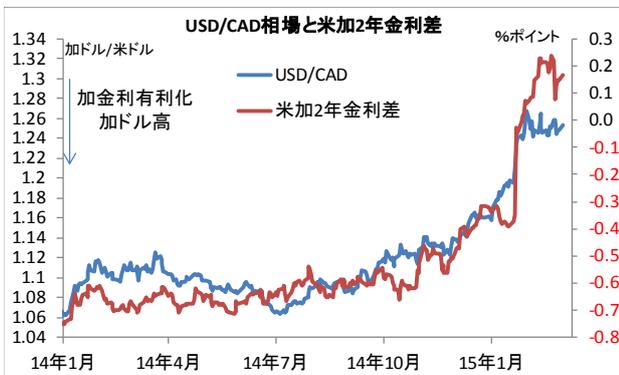
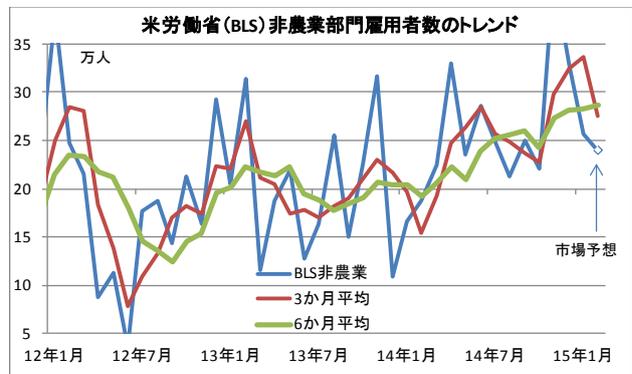
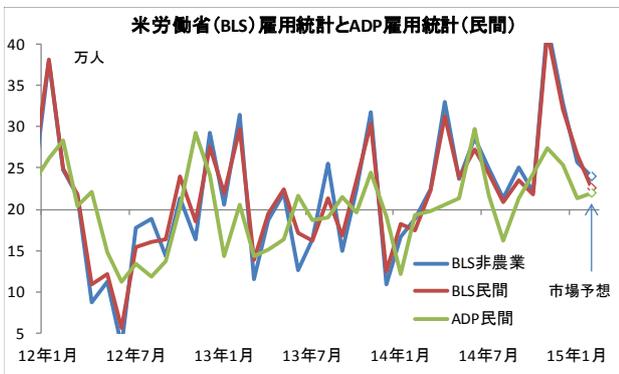
(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は米 ADP 民間雇用および ISM 非製造業景況指数が注目される。金曜発表の雇用統計を前に、非農業部門雇用者数とが比較的連動性高い ADP 民間雇用が上振れしたり、米国の雇用創出の大半を占めるサービス業の

景況を表す ISM 非製造業景況指数の雇用指数が前回から改善すると、ドル高要因となる。但し、足許は雇用統計でも平均時給の動きに注目が集まる中、比較的早いペースで進んでいる雇用創出の部分は多少振れても利上げ開始タイミング決定上重要ではないとみられ、市場の反応は限定的となるかもしれない。なお、FOMC メンバー内で最もハト派の部類に入る Evans 総裁発言も予定されているが、彼の場合は実際の利上げ開始決定時も据え置き票を投じる可能性すらあり、FOMC の目先の方向性を見る上での風見鶏にはなりそうにない。

豪ドルを巡っては豪 4Q GDP が注目で、市場予想を下回れば次回 4 月理事会での利下げ期待が高まり豪ドル安、他方で高い伸びとなれば追加利下げ期待の後退から豪ドル反発となろう。但し、昨日 RBA 理事会が終わっていること、声明文で金利を当面 (for the time being) 据え置くとされた中、次の利下げ決定に向けては次回 4 月 7 日の RBA 理事会というより 4 月 22 日発表の 1QCPI 結果を確認でき四半期金融声明発表時期でもある 5 月理事会に焦点が移る可能性が高まっており、余程大きく市場予想から外れない限り市場の注目度は相対的に低くなっているとみられる。

カナダ中銀の追加緩和の有無も注目される。市場コンセンサスは 0.75% で据置きだが、市場では今回あるいは年央までに追加緩和を予想する向きも多く、利下げならカナダドル安、据置きなら昨日の豪ドルと同様に反発が予想される。但し、据え置きと同時に今後の金融政策スタンスとして RBA と同じように当面据え置きが示唆されると、追加利下げを織り込んでいるカナダ金利の大幅反発と共にカナダドルの上昇は大きくなりそうだ (下図を参照)。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者 (投資助言・代理業) 関東財務局長 (金商) 第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641